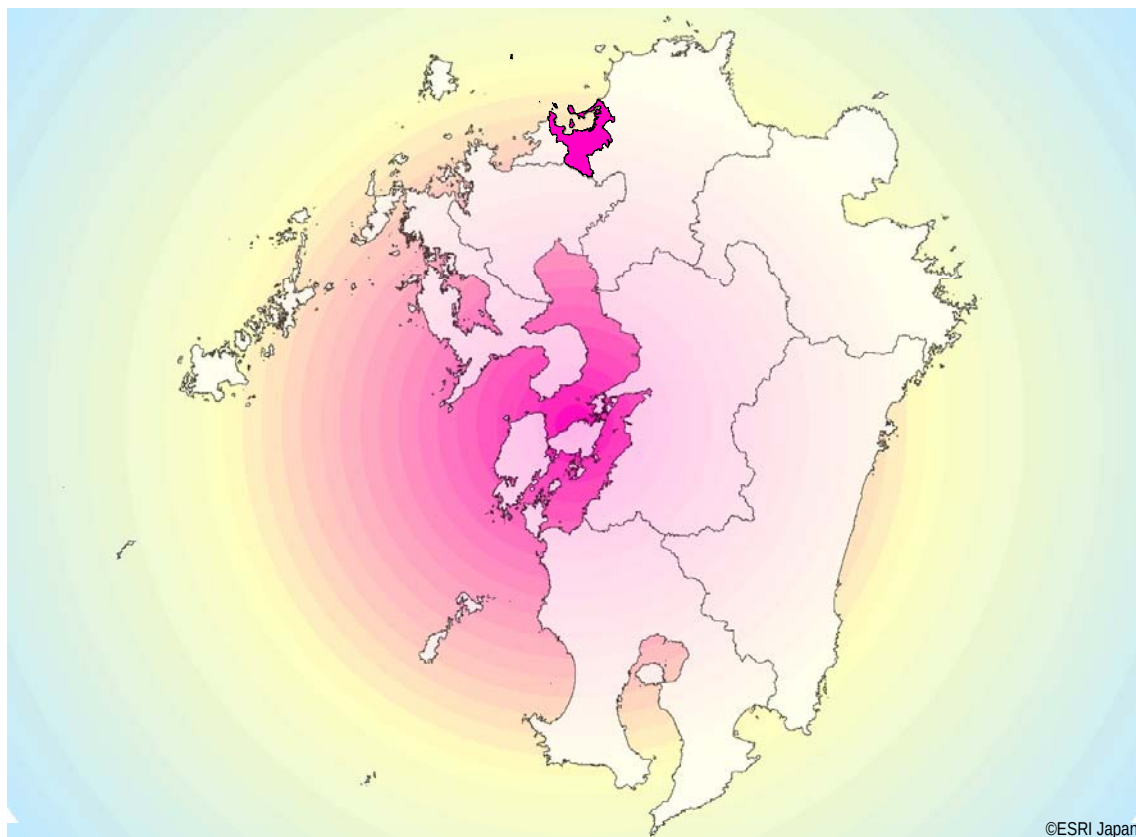


若年男女人口比からみえる福岡市のすがた

～未婚率からみる福岡市の人口構造・課題～



2011年2月

0. はじめに

当行九州支店では、2010年5月発行のレポート(*)において、福岡は、魅力的な都市機能の充実等を背景に、20代若年女性等を中心に居住人口の都心シフトが進展していることを指摘した。本稿ではこれらもふまえ、男女人口比率や未婚率等を他都市と比較し、人口バランスの関係から浮き彫りとなる福岡市の現状と背景、そして今後の課題について調査した。

(*)福岡における若年居住人口の都心シフト～中心地2km圏内の20代人口増加率:21%(95-05年度)～

1. 福岡市の年代別人口推移

福岡市の1990～2010年までの各年代・男女別人口と、女性人口／男性人口比率の推移を調査した。

○女性人口／男性人口比率について、10代は、ほぼ全国平均(0.95程度)だが、20～30代は、一貫して女性比率が上昇しており、とくに20代では2010年現在、他の年代と比較して最も高く、若年層の女性人口比率は年々上昇している。

2. 福岡市と他都市の比較

福岡の若年層の女性人口比率が上昇している背景を、他都市の男女人口比率・産業別従業者比率・転入超から他都市データと比較し、福岡市の状況を検証した。

また、これらの背景が影響している点を未婚率データから探った。

○男女人口比率

札幌、仙台、東京23区、名古屋、大阪、広島、福岡の7大都市において、年齢階級別の女性人口／男性人口比率をみると、福岡市では、とくに25～29歳において女性人口が男性人口を1割以上上回り、全国平均(0.95程度)より約15ポイント、女性が多い状況にある。

また、全国19の政令指定都市及び東京23区との比較では、20代に限ってみると、福岡市は日本の大都市の中でも、最も女性人口比率が高い都市である。

○20代女性の産業別従業者比率

全国19の政令指定都市及び東京23区との比較では、第3次産業の従業者数が多い都市ほど女性比率が高く、第2次産業の従業者数が多い都市ほど男性比率が高いという構図が見てとれた。この結果からも、福岡市は第3次産業の従業者比率も、女性人口比率も最も高いことが分かる。

○転入超

福岡市の年齢階級別では、男性は大学等高等教育進学期にあたる15～19歳の転入超が最も多いのに対し、女性は大学等高等教育進学期に加え、就職期にあたる20～24歳の転入超が最も多く、この時期に福岡市へ女性が最も流入している。

地域別では、九州でみると九州各県から福岡市への転入超は、いずれの県も女性が男性を上回っており、福岡市への女性の流入が多いことが分かる。

○未婚率

全国19の政令指定都市における20代後半と30代前半の未婚率をみると、福岡市においては男性の未婚率が全国の中上位に位置する一方、女性はどちらの年齢層においても最も高い未婚率となっている。

また、福岡市は女性の人口比率が高いことに加え、男性の未婚率も比較的高い傾向にあることから、さらに女性の未婚率を押し上げる要因となり、女性の未婚率が最も高くなったと推測できる。

但し、女性の人口比率と女性未婚率の高さは比例しない事例もある。

(事例:岡山市の場合・・・女性人口比率が高い割に、女性未婚率は低い)

20代後半から30代前半の未婚の男女人口割合を比較すると、全政令指定都市において、未婚の男性人口が未婚の女性人口を上回っていることがわかる。これは、①女性は男性に比べ初婚年齢が低く(全国:男性30.4歳、女性28.6歳)早く結婚する傾向にあること、②女性に比べ男性の未婚率が高い(全国25～34歳男性:58.3%、同女性:44.4%)傾向から言える。

この割合においても、福岡市は全国19の政令指定都市中、未婚女性人口割合が最も高くなっている。

3. 参考資料ー福岡市の人口推移

福岡市の人口推移データを参考資料として掲載(2010年、2020年、2035年)

4. まとめ

福岡市は「女性に魅力的な街」とでも言えようか。

3月には、九州新幹線全線開通、「JR博多シティ」の誕生が控え、福岡市の魅力はさらに高まるであろう。若年層女性が活躍するサービス業を中心とした第3次産業も勢いを増すと推測できる。

このような明るい見通しがある一方、福岡市は、今まで示してきたように若年層男女人口バランスの偏りが見られる。

今後も福岡の産業構造を活かし、さらに発展していくため、福岡市の取組みとして現在、全国有数の大学の集積とそこで生み出される優れた研究成果と豊富な人材を活かし、産学連携の推進や、情報関連産業・デジタルコンテンツ関連産業などの知識創造型の産業集積を図り、「アジアの拠点都市」を目標にビジネス環境を整備しているところである。

こういった、企業誘致や研究部門の誘致など、今後活力を生むであろう新分野での産業を創出することで、女性のみならず男性にも魅力的な就業口を広げ、若く優秀な人材を福岡市に定着させる必要がある。

また、今後ますます進む少子高齢化への対策のためにも、将来を見据え、バランスのとれた男女人口比となっていくことも必要ではないだろうか。

(お問い合わせ先)

〒810-0001 福岡市中央区天神2-12-1天神ビル2F

(株)日本政策投資銀行九州支店

企画調査課 TEL 092-741-7737

◆ 1. 福岡市の年代別人口推移	P. 5
◆ 2. 福岡市と他都市の比較	
①男女人口比率	P. 6
②20代女性の産業別従業者比率	P. 7
③転入超	P. 8
④未婚率	P. 9
◆ 3. 参考資料	
福岡市の人口推移	P. 10
◆ 4. まとめ	P. 11

1. 福岡市の年代別人口推移

まず、福岡市の1990～2010年までの各年代・男女別人口と、女性人口／男性人口比率の推移から福岡市の特徴を調査した

●1990年以降の福岡市の年代別女性人口／男性人口比率の推移をみると、10代はほぼ全国平均(0.95程度)である。しかし、20～30代は一貫して女性比率が上昇しており、とくに20代では2010年現在、他の年代と比較して最も高くなっている。

この20年、福岡市の若年層において女性人口比率が上昇していることが分かる【図表1・2】

【図表1】 福岡市年代・男女別人口（1990～2010年）

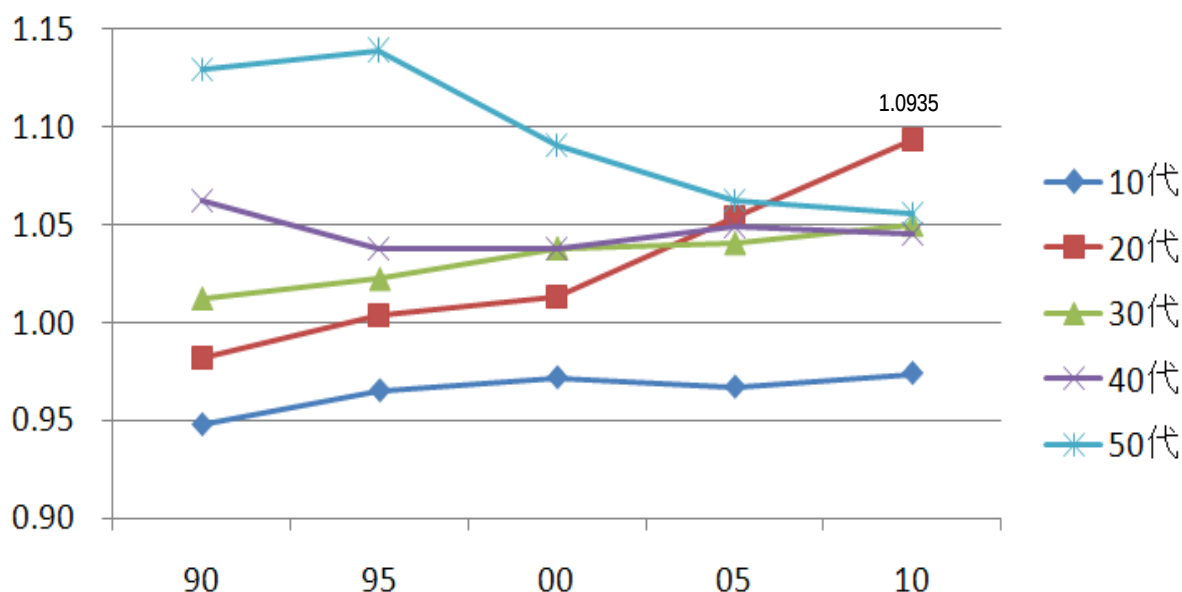
(単位:千人)

年	総人口	男性								女性							
		合計	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代～
1990	1,198	581	76	91	100	93	91	64	67	617	73	86	99	94	97	72	97
1995	1,226	591	67	81	111	86	96	69	82	635	64	78	111	88	100	78	116
2000	1,280	614	64	73	116	92	87	84	97	666	61	71	118	96	90	92	138
2005	1,337	637	65	67	106	108	83	92	116	699	62	65	111	113	88	98	163
2010	1,397	663	67	65	94	115	93	86	143	734	64	64	102	121	97	90	195

(備考) 1.1990年は9月30日現在、1995年以降は3月31日現在

2.福岡市「福岡市統計書」、国土地理協会「住民基本台帳人口要覧」より作成

【図表2】 福岡市年代別 女性人口／男性人口(1990～2010年)



(備考) 1.1990年は9月30日現在、1995年以降は3月31日現在

2.福岡市「福岡市統計書」、国土地理協会「住民基本台帳人口要覧」より作成

2. 福岡市と他都市の比較－①男女人口比率

次に、福岡市と他の政令指定都市の男女人口比率についてデータを比較、検証した

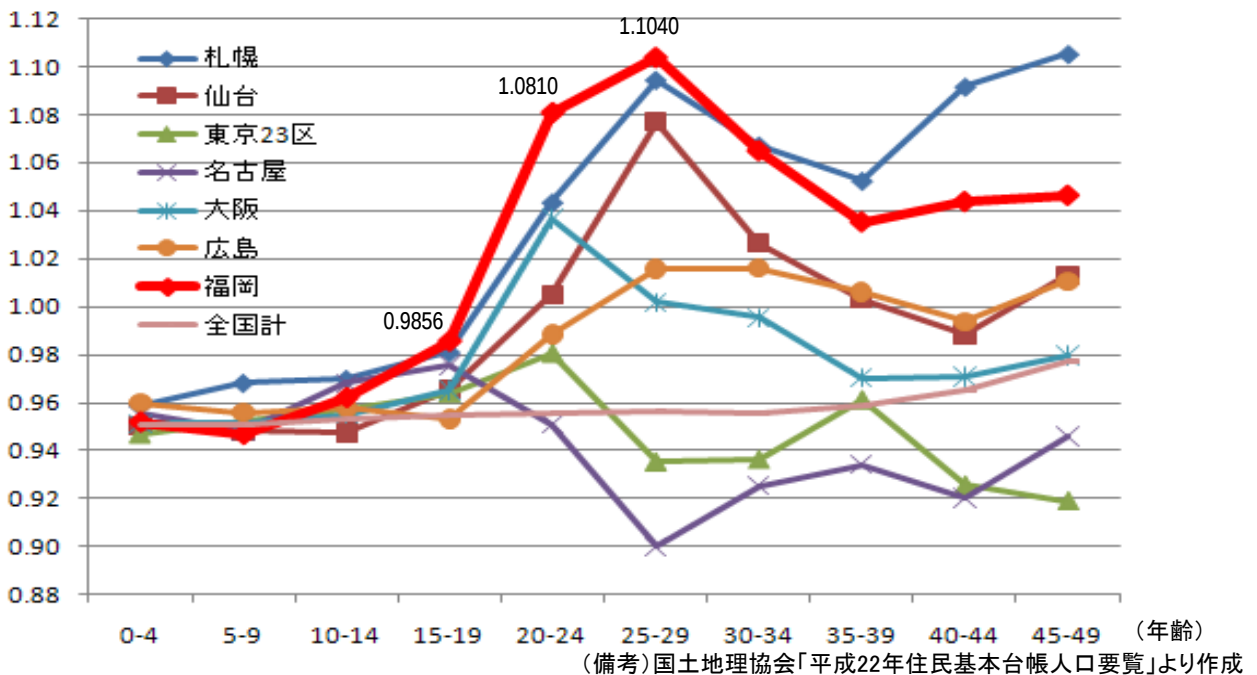
●札幌、仙台、東京23区、名古屋、大阪、広島、福岡の7大都市の比較

福岡市は、15～19歳、20～24歳、25～29歳の年齢階級において、女性人口／男性人口比率が最も高くなっている。とくに、25～29歳では、女性人口が男性人口を1割以上上回っており、全国平均(0.95程度)より約15ポイント、女性が多い状況と言える【図表3】

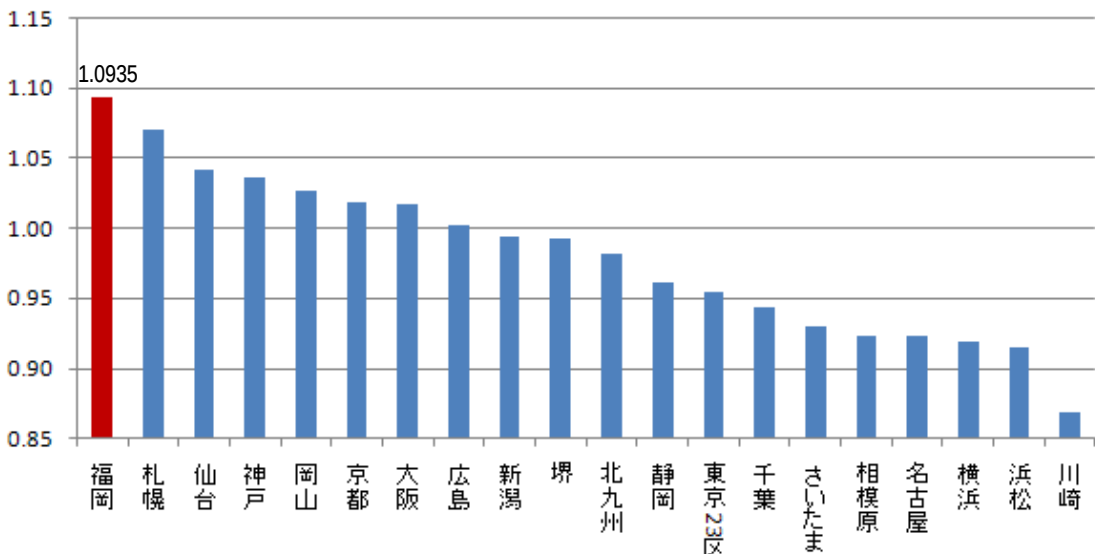
●全国19の政令指定都市及び東京23区の比較

20代に限ってみると福岡市は、日本の大都市の中でも、最も女性人口比率が高い都市であることが確認できる【図表4】

【図表3】 7大都市年齢階級別 女性人口／男性人口(2010年3月末)



【図表4】 政令指定都市＋東京23区 20代女性人口／男性人口(2010年3月末)



2. 福岡市と他都市の比較－②20代女性の産業別従業者比率

次に、福岡市の女性人口比率の高い背景を他の政令指定都市と比較し次の点から検証した

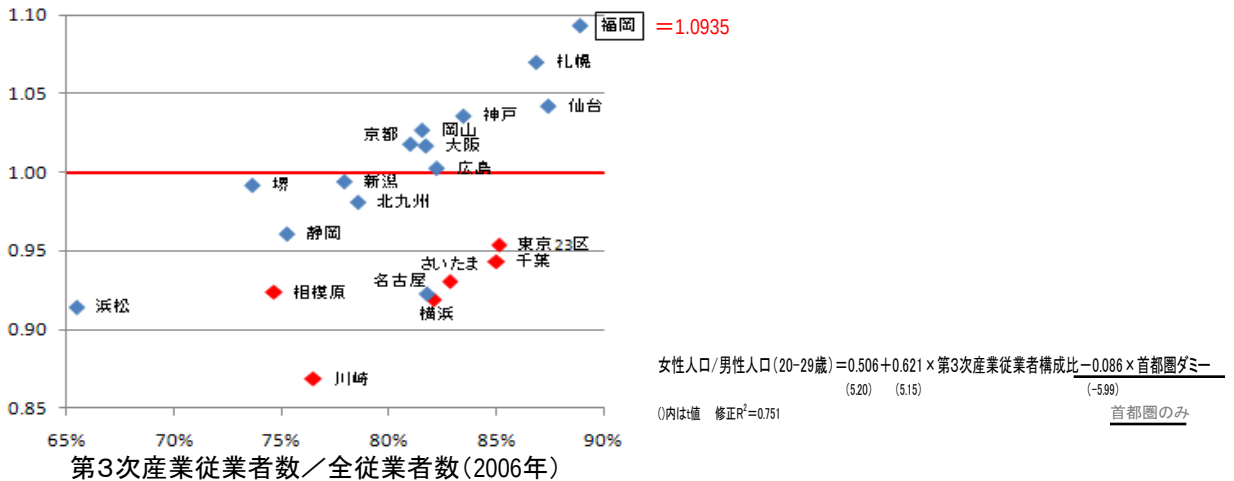
a. 産業別従業者比率

●全国19の政令指定都市及び東京23区について、第3次産業（サービス業を中心とする産業）の従業者構成比を横軸に、20代の女性人口／男性人口比率を縦軸にしてみると、第3次産業の従業者数が多い都市ほど女性人口比率が高く、福岡市は、第3次産業の従業者比率も女性人口比率も最も高いことが分かる。第3次産業従業者構成比と首都圏ダミー変数を説明変数とする推定を行うと、第3次産業従業者構成比が1%ポイント上昇すると、女性人口／男性人口比率は、0.621%ポイント上昇するという関係がある【図表5】

●一方で、第2次産業（製造業、建設業を中心とする産業）の従業者構成比を横軸で同様にみると、第2次産業の従業者数が多い都市ほど男性比率が高い。第2次産業従業者構成比と首都圏ダミー変数を説明変数とする推定を行うと、第2次産業従業者構成比が1%ポイント上昇すると、女性人口／男性人口比率は、0.627%ポイント低下するという関係がある【図表6】

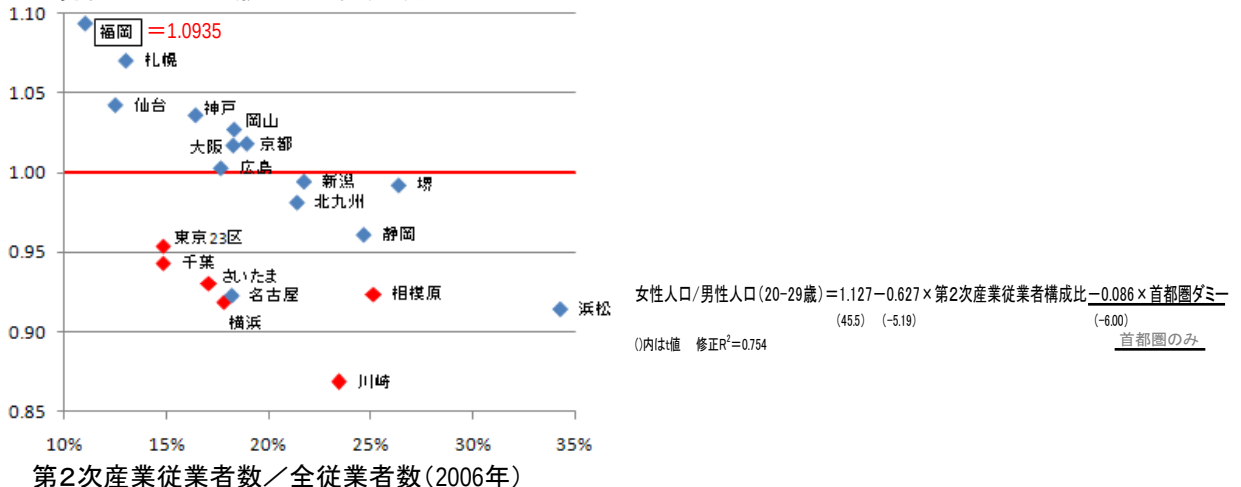
【図表5】女性人口比率と第3次産業従業者比率（政令指定都市+東京23区）

女性人口／男性人口（20-29歳 2010年3月末）



【図表6】女性人口比率と第2次産業従業者比率（政令指定都市+東京23区）

女性人口／男性人口（20-29歳 2010年3月末）



2. 福岡市と他都市の比較－③転入超

b. 福岡市の年齢階級別転入超

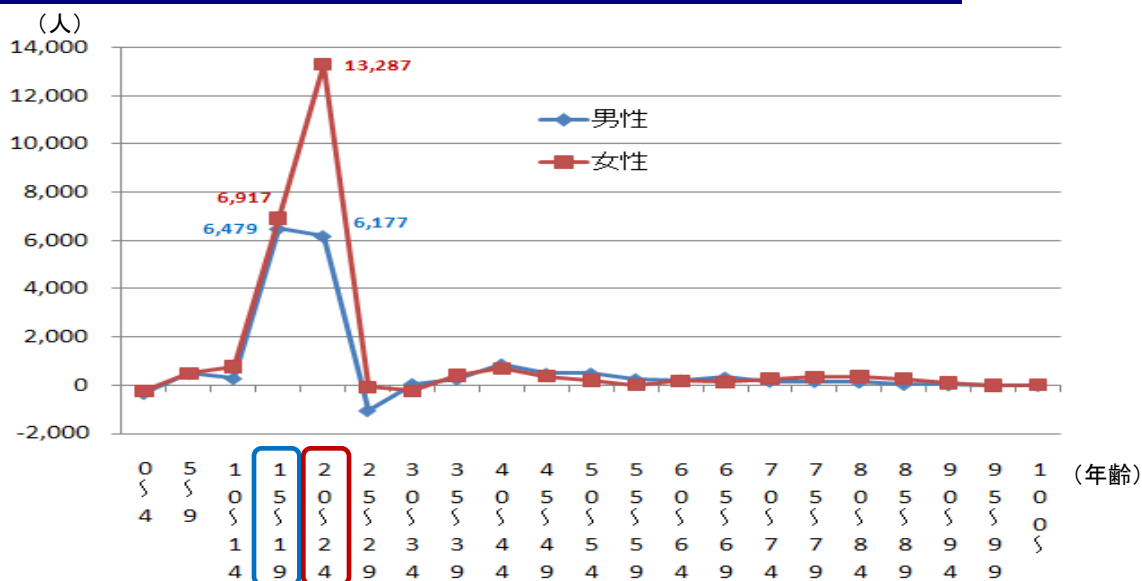
●男性は大学等高等教育進学期にあたる15～19歳の転入超が最も多いのに対し、女性は大学等高等教育進学期に加え、就職期にあたる20～24歳の転入超が最も多く、この時期に福岡市へ女性が最も流入している。それにより、20代女性人口比率が高くなっている【図表7】

c. 福岡市の地域別転入超

●東京・関東甲信越へは▲16,306人と男女ともかなりの流出がみられるが、その一方で九州の各県からは+46,046人と、東京・関東甲信越への流出を大きく上回る人口が、福岡市に流入している。よって、福岡市は九州各県から人口が流入し、関東を中心に関東が流出するという構図がみてとれる【図表8】

●また、男女別の九州各県から福岡市への転入超は、いずれの県も女性が男性を上回っており、福岡市への女性の流入が多いことが分かる【図表8】

【図表7】福岡市の年齢階級別転入超(＝転入－転出) (2005～2009年)



(備考) 福岡県HP「ふくおかデータウェブ」より作成

【図表8】福岡市の地域別転入超(＝転入－転出) (2005～2009年)

	男性	女性	合計	(単位:人)
北海道	244	33	277	
東北	262	243	505	
東京	▲ 5,115	▲ 5,347	▲ 10,462	
関東甲信越(除東京)	▲ 2,684	▲ 3,160	▲ 5,844	
〈関東甲信越 計〉	▲ 7,799	▲ 8,507	▲ 16,306	
北陸	12	59	71	
東海	▲ 1,513	▲ 628	▲ 2,141	
関西	▲ 686	▲ 802	▲ 1,488	
中国	2,120	2,821	4,941	
四国	433	414	847	
福岡県	3,591	8,434	12,025	
佐賀県	1,510	2,376	3,886	
長崎県	5,167	6,650	11,817	
熊本県	2,763	3,294	6,057	
大分県	1,407	2,060	3,467	
宮崎県	1,271	1,891	3,162	
鹿児島県	2,572	3,060	5,632	
〈九州 計〉	18,281	27,765	46,046	
沖縄県	107	109	216	
全国計	11,461	21,507	32,968	

(備考) 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告年報」より作成

2. 福岡市と他都市の比較－④未婚率

これまで見てきたとおり、福岡市若年層の女性比率が多い背景を踏まえ、この状況がどういった影響を招いているかを以下の点から探ってみた

d. 未婚率

●全国19の政令指定都市における20代後半と30代前半の未婚率をみると、福岡市においては男性の未婚率が全国の中上位に位置する一方、女性はどちらの年齢層においても最も高い未婚率となっている。

また、福岡市は女性の人口比率が高いことに加え、男性の未婚率も比較的高い傾向にあることから、さらに女性の未婚率を押し上げる要因となり、女性の未婚率が最も高くなったと推測できる。

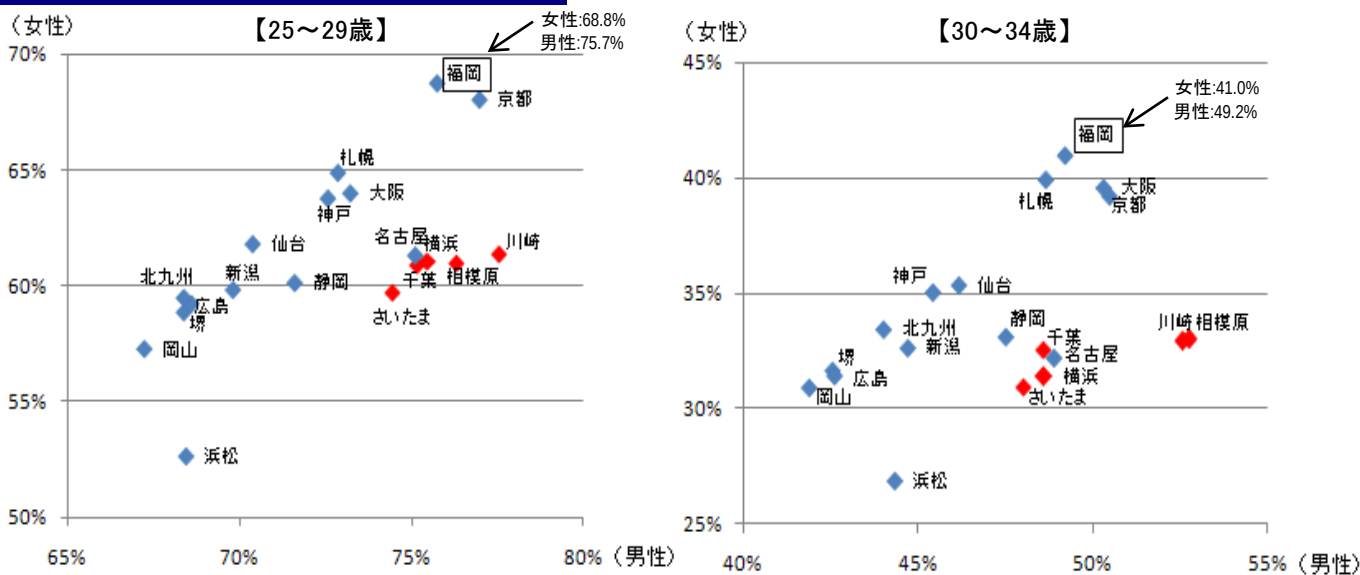
但し、女性の人口比率と女性未婚率の高さは比例しない事例もある。

(事例:岡山市の場合・・・女性人口比率が高い割に、女性未婚率は低い)【図表9】

●20代後半から30代前半の未婚の男女人口割合を比較すると、全政令指定都市において、未婚の男性人口が未婚の女性人口を上回っていることがわかる。これは、①女性は男性に比べ初婚年齢が低く(全国:男性30.4歳、女性28.6歳)早く結婚する傾向にあること、②女性に比べ男性の未婚率が高い(全国25～34歳男性:58.3%、同女性:44.4%)傾向から言える。

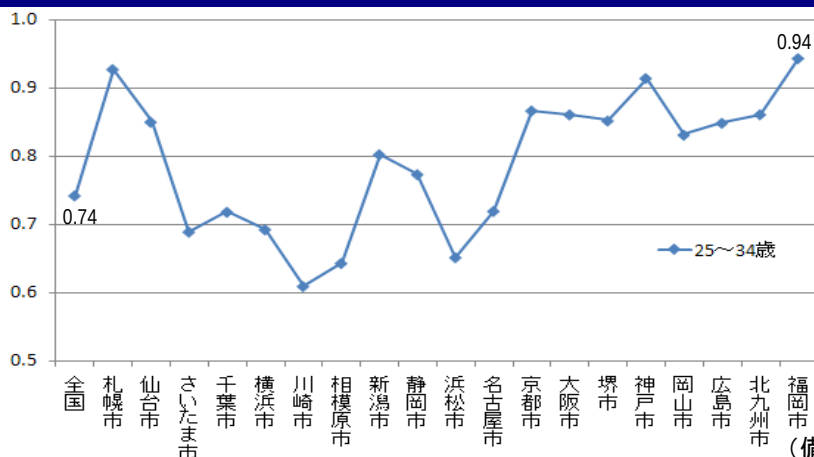
この割合においても、福岡市は全国19の政令指定都市中、未婚女性人口割合が最も高くなっている【図表10】

【図表9】 政令指定都市の未婚率



(備考) 1. 赤いポイントは首都圏を示す 2. 総務省「平成17年国勢調査」より作成

【図表10】 政令指定都市 年齢階級別 未婚女性人口／未婚男性人口

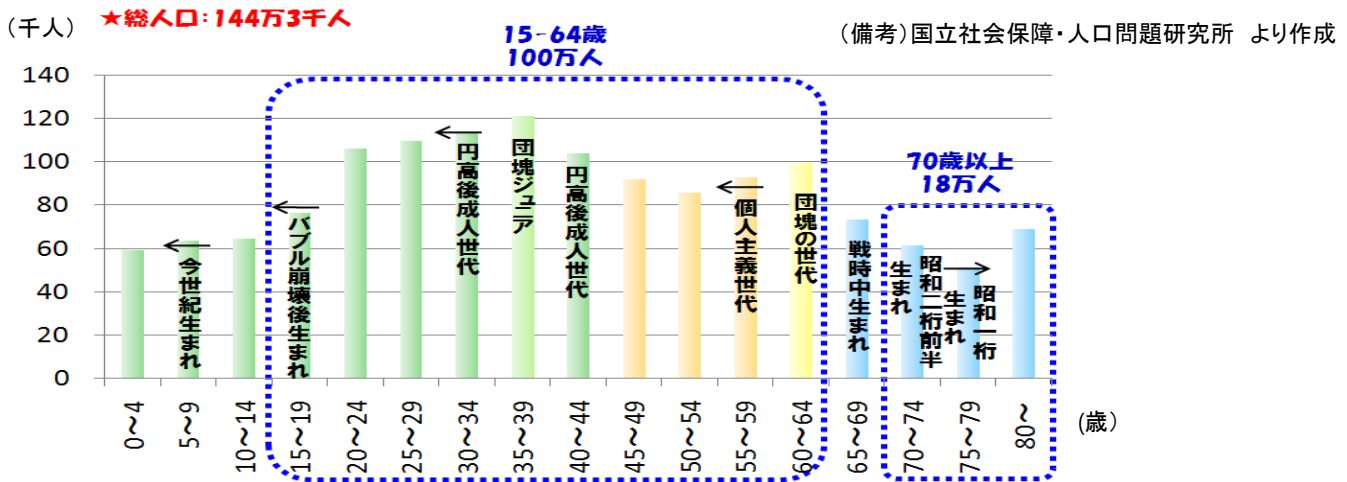


(備考) 総務省「平成17年国勢調査」より作成

3. 参考資料－福岡市の人口推移

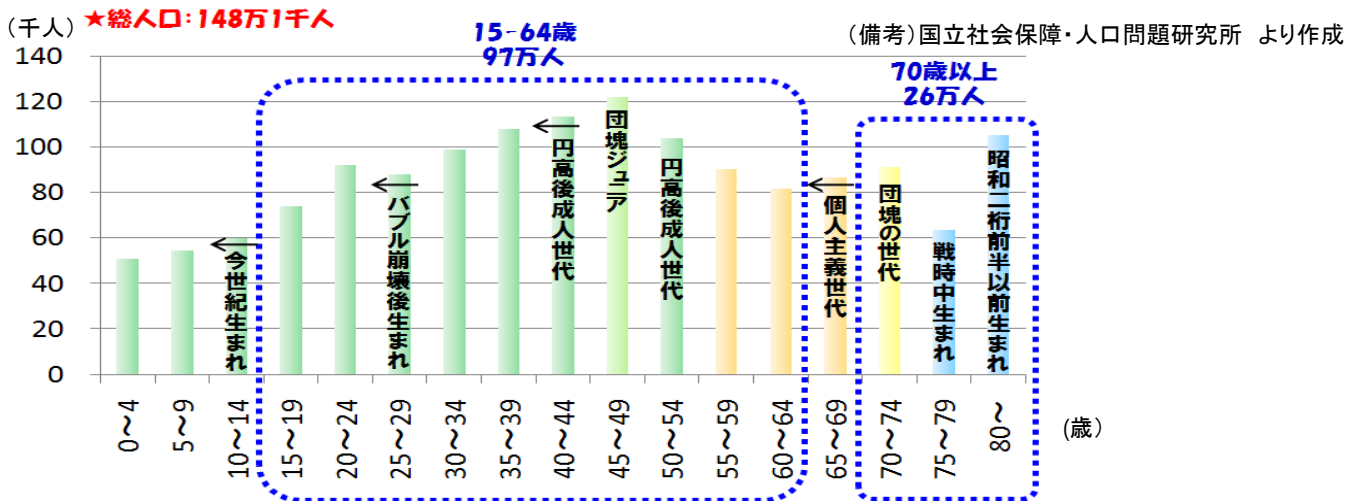
【図表11】 福岡市の人口推移（2010年）

何歳の人口が多いのか：2010（H22）＝今現在



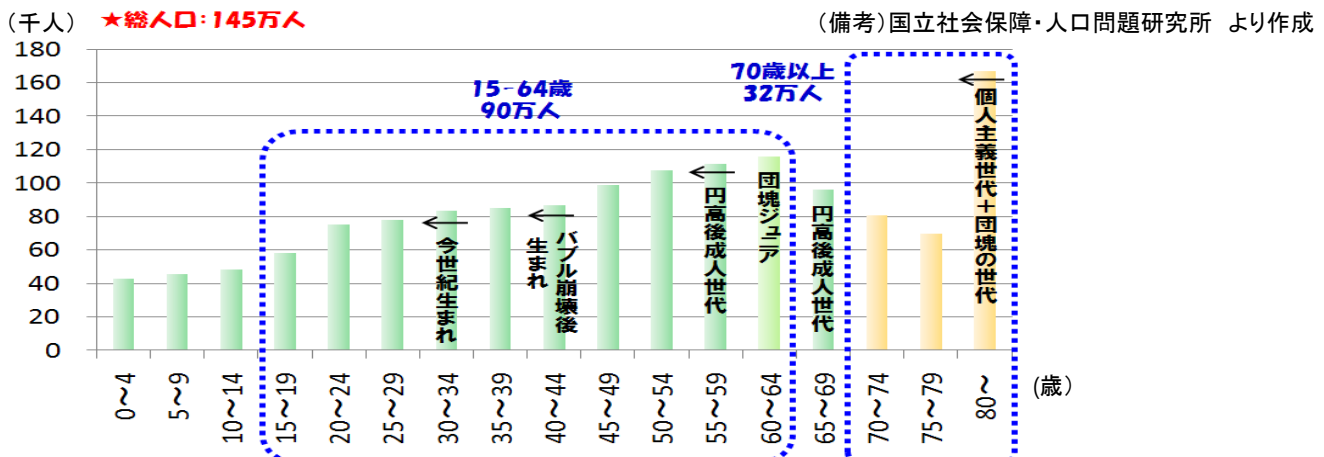
【図表12】 福岡市の人口推移（2020年）

何歳の人口が多いのか：2020（H32）＝10年後



【図表13】 福岡市の人口推移（2035年）

何歳の人口が多いのか：2035（H47）＝25年後



4. まとめ

これまでみてきたとおり

福岡市は……

- 若年層(20～30代)の女性人口比率が上昇している傾向にあり、
- 他都市と比較しても、女性人口比率は全国平均を大きく上回り、特に20代においては、日本の大都市の中で最も高い

女性人口比率が高い背景

- 大学等高等教育進学期・就職期にあたる若年層の福岡市への女性流入が集中
とくに九州各県から福岡市への流入人口は女性が男性を大きく上回っている
- 第3次産業の従業者数が多い都市ほど女性人口比率が高い傾向にあり、福岡市はサービス業を中心として女性に魅力的な就職先が多いと推測

九州の女性の福岡市志向が強く、若年層の女性人口比率が高い
女性人口比率が高く、かつ男性未婚率も比較的高い
20代後半～30代前半の**女性未婚率は政令指定都市中ナンバーワン**

福岡市の政策からみる対策

福岡市は「女性に魅力的な街」とでも言えようか。

3月には、九州新幹線全線開通、「JR博多シティ」の誕生が控え、福岡市の魅力はさらに高まるであろう。若年層女性が活躍するサービス業を中心とした第3次産業も勢いを増すと推測できる。

このような明るい見通しがある一方、福岡市は、今まで示してきたように若年層男女人口バランスの偏りが見られる。

今後も福岡の産業構造を活かし、さらに発展していくため、福岡市の取組みとして現在、全国有数の大学の集積とそこで生み出される優れた研究成果と豊富な人材を活かし、産学連携の推進や、情報関連産業・デジタルコンテンツ関連産業などの知識創造型の産業集積を図り、「アジアの拠点都市」を目標にビジネス環境を整備しているところである。

こういった、企業誘致や研究部門の誘致など、今後活力を生むであろう新分野での産業を創出することで、女性のみならず男性にも魅力的な就業口を広げ、若く優秀な人材を福岡市に定着させる必要がある。

また、今後ますます進む少子高齢化への対策のためにも、将来を見据え、バランスのとれた男女人口比となっていくことも必要ではないだろうか。

